2027年3月期 中間期
決算補足説明資料

2026年11月10日

品川リフラ株式会社

© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

INDEX

1. 連結業績ハイライト
2. EBITDA・営業利益の増減要因
3. セグメント別売上高及びEBITDA
4. セグメント別概況 ①耐火物セクター
5. セグメント別概況 ②断熱材セクター
6. セグメント別概況 ③先端機材セクター
7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター
8. 地域別の売上高
9. 2027年３月期の通期業績見通し
10. 2027年３月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し（対前年度）
11. トピックス
    ①中国・品川和豊に機能性耐火物の新工場が竣工
    ②ファインセラミックス・高機能断熱材の供給能力を強化

© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

1. 連結業績ハイライト

(単位：億円)

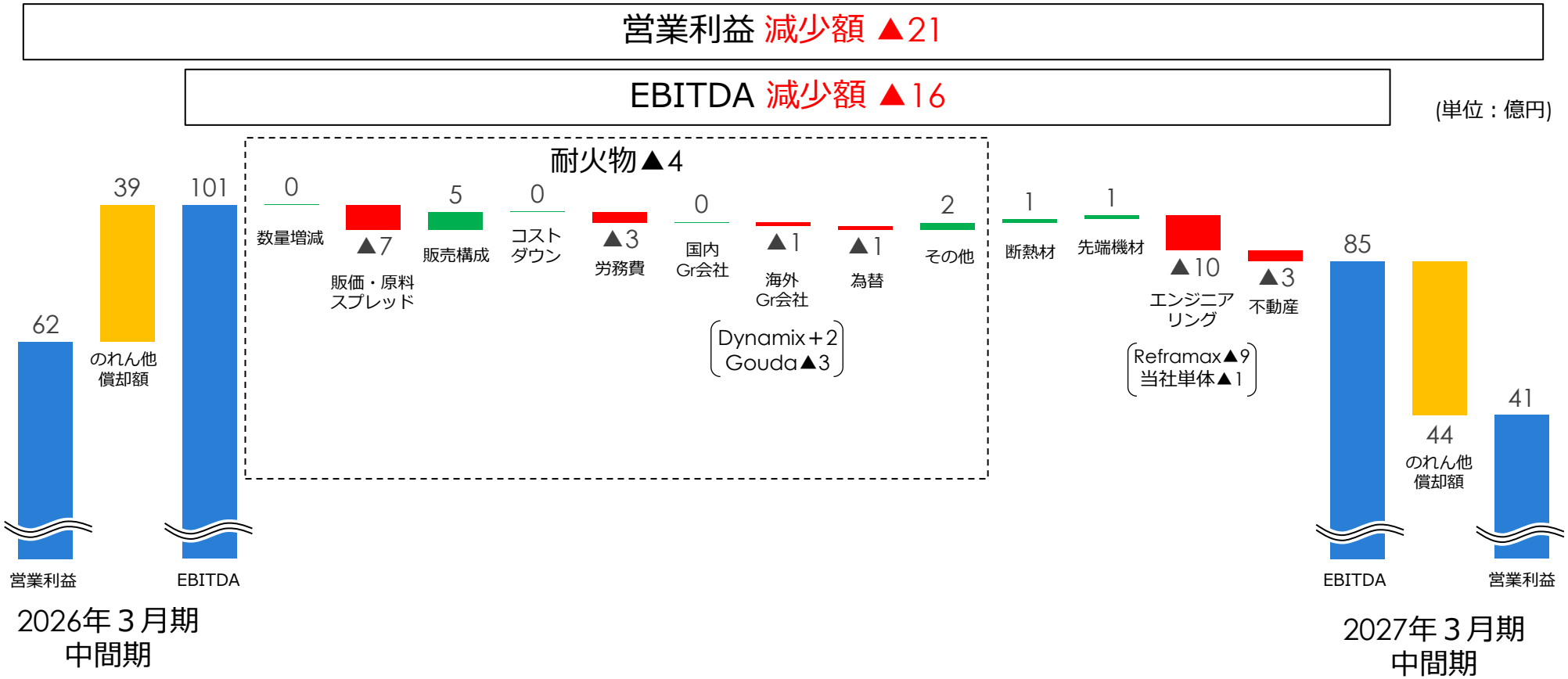
	2026年３月期 中間期 実績	2027年３月期 中間期 実績	前年同期比	
売上高	818	**941**	+123	(+15.0%)
EBITDA	101	**85**	▲16	(▲15.9%)
営業利益	62	**41**	▲21	(▲34.0%)
経常利益	69	**55**	▲14	(▲20.4%)
親会社株主に帰属する中間期純利益	43	**62**	+19	(+43.9%)
EBITDAマージン	12.4%	**9.1%**	▲3.3pt	
ROS（営業利益率）	7.6%	**4.4%**	▲3.2pt	
ROIC	5.4%	**3.7%**	▲1.7pt	
DEBT/EBITDA倍率	2.5倍	**1.7倍**	▲0.8pt	

注１： 前年同期比は本表記上の数値ではなく、一の位までの実績値で計算しています。以下同様
注２： EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- 2027年３月期 中間期 国内粗鋼生産量は前年同期比0.5%増の4,027万トン。
- 売上高は、各セクターにおける継続的な拡販活動の成果に加え、エンジニアリングセクターのReframax（ブラジル）および耐火物セクターのDynamix（米国）の連結効果により、全体で大幅な増収。
- 損益面では、全セクターにおいて高付加価値製品・サービスを中心とした拡販活動等を進めたものの、耐火物セクターにおける中東情勢の影響による原燃料コストの上昇やGouda（オランダ）およびSAM（米国）の設備トラブル影響に加え、Reframaxの減益影響等により、EBITDA、営業利益および経常利益は減益。
- 親会社株主に帰属する中間純利益は、豪州子会社における固定資産売却益の計上により増益。

© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

2. EBITDA・営業利益の増減要因



- EBITDAは▲16億円の減益。耐火物セクターにおける販売構成の改善や、断熱材・先端機材セクターの増益がプラス要因となったものの、耐火物セクターにおけるスプレッドの悪化等に加え、エンジニアリングセクターにおけるReframaxの業績低迷が影響し、全体では減益。
- 営業利益は、M&Aに伴うのれん償却額および設備投資に伴う減価償却費の増加により、▲21億円の減益。

© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

3. セグメント別売上高及びEBITDA

(単位：億円)

		2026年３月期 中間期 実績	2027年３月期 中間期 実績	前年同期比	
耐火物	売上高	529	**593**	+63	(+12.1%)
	EBITDA	74	**69**	▲4	(▲6.0%)
断熱材	売上高	86	**91**	+4	(+5.5%)
	EBITDA	15	**17**	+1	(+7.3%)
先端機材	売上高	19	**25**	+5	(+29.4%)
	EBITDA	0	**1**	+1	(+730.3%)
エンジニアリング	売上高	184	**238**	+53	(+29.0%)
	EBITDA	7	**▲3**	▲10	(－ %)
その他（不動産）	売上高	4	**0**	▲4	(－ %)
	EBITDA	3	**0**	▲3	(－ %)
合計	売上高	818	**941**	+123	(+15.0%)
	EBITDA	101	**85**	▲16	(▲15.9%)

注： 合計額には、セグメント利益の調整額が含まれています

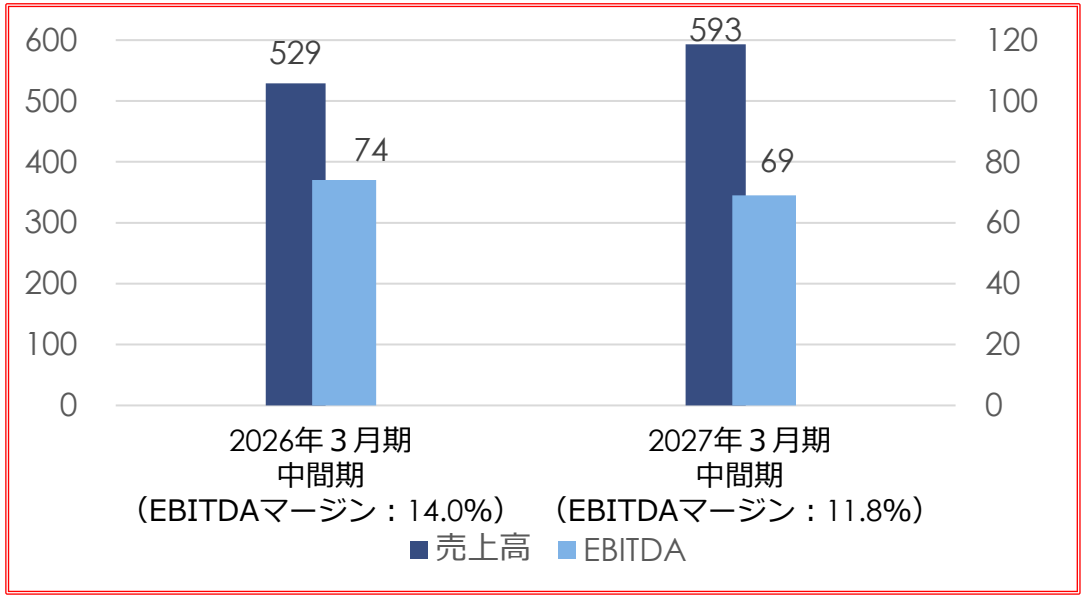
© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

4. セグメント別概況 ①耐火物セクター

業績推移

(単位：億円)

	2026年３月期 中間期	2027年３月期 中間期	前年同期比	
売上高	529	**593**	+63	(+12.1%)
EBITDA	74	**69**	▲4	(▲6.0%)
営業利益	45	**41**	▲3	(▲8.7%)
EBITDAマージン	14.0%	**11.8%**	–	(▲2.2Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

＜中間期業績について＞

▶当社単体および海外関係会社における売上高の増加により、増収

▶高付加価値製品の拡販や価格設定の適正化、継続的なコストダウンに取り組んだものの、原燃料コストの大幅な上昇やGoudaおよびSAMにおける設備トラブルの影響により、EBITDAおよび営業利益は減益

＜今後の課題＞

▶グローバルネットワークを活用した市場開拓および販売拡大

▶モールドフラックスの欧州生産拠点確立および米州事業基盤の強化

▶連続鋳造用機能性耐火物の中国生産拠点の安定操業の確立およびグローバル販売体制の構築

▶国内の電炉・非鉄・工業炉分野におけるシェア拡大

▶GREEN REFRACTORY※の市場浸透拡大および大型電炉向け等の次世代製品開発の推進

▶生産性向上と調達最適化による収益力強化

※ GREEN REFRACTORY：使用後耐火物等のCO_2排出量を実質ゼロと見なせる原料を20%以上使用した製品、ならびにお客様の使用現場における熱ロス低減に寄与する製品

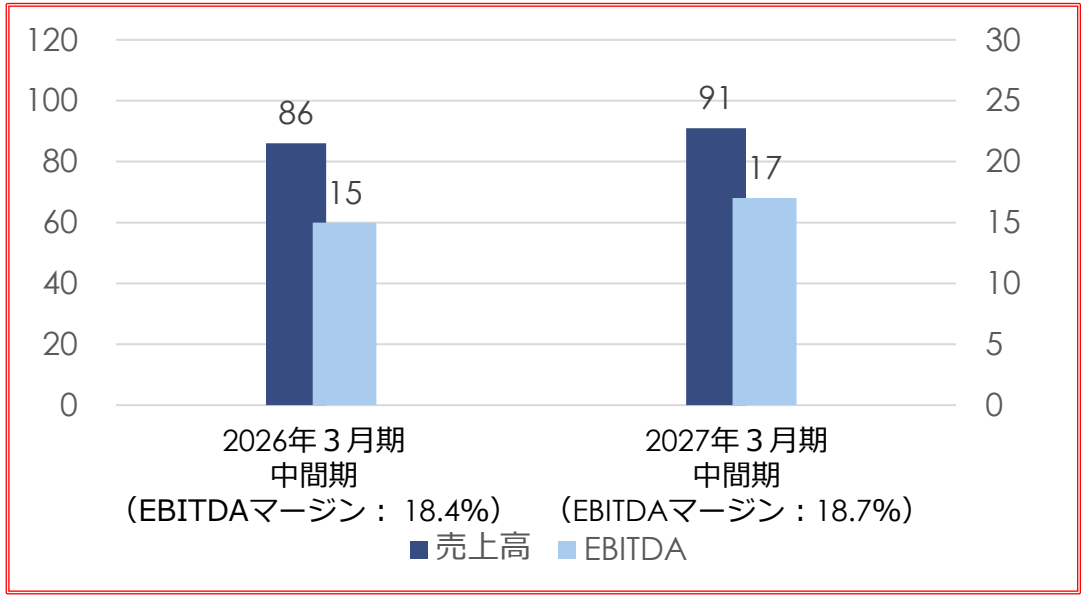
© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

5. セグメント別概況 ②断熱材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2026年３月期 中間期	2027年３月期 中間期	前年同期比	
売上高	86	**91**	+4	(+5.5%)
EBITDA	15	**17**	+1	(+7.3%)
営業利益	11	**12**	+1	(+7.9%)
EBITDAマージン	18.4%	**18.7%**	–	(+0.3Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

＜中間期業績について＞

▶半導体関連分野を中心とした需要回復や、国内外での拡販活動による案件獲得の進展により、増収・増益

▶下期は各種工事案件の増加や需要のさらなる拡大により、事業環境は引き続き堅調に推移する見通し

＜今後の課題＞

▶高機能断熱材の需要拡大に対応した生産能力増強および安定供給体制の強化

▶海外グループ各社との連携強化を通じた新規市場の開拓（欧州・中東・東南アジア・南米地域の鉄鋼・非鉄・石油化学分野等）

▶重点市場向け製品の開発・販売強化（半導体関連、エネルギー、電子部品、建築分野等）

▶超断熱製品LTCシリーズ※の市場浸透拡大（溶鋼処理炉・非鉄保持炉・各種工業炉向け）

※ LTCシリーズ：マイクロポーラス構造により極めて高い断熱性能を発揮し、熱ロスの低減に貢献する製品

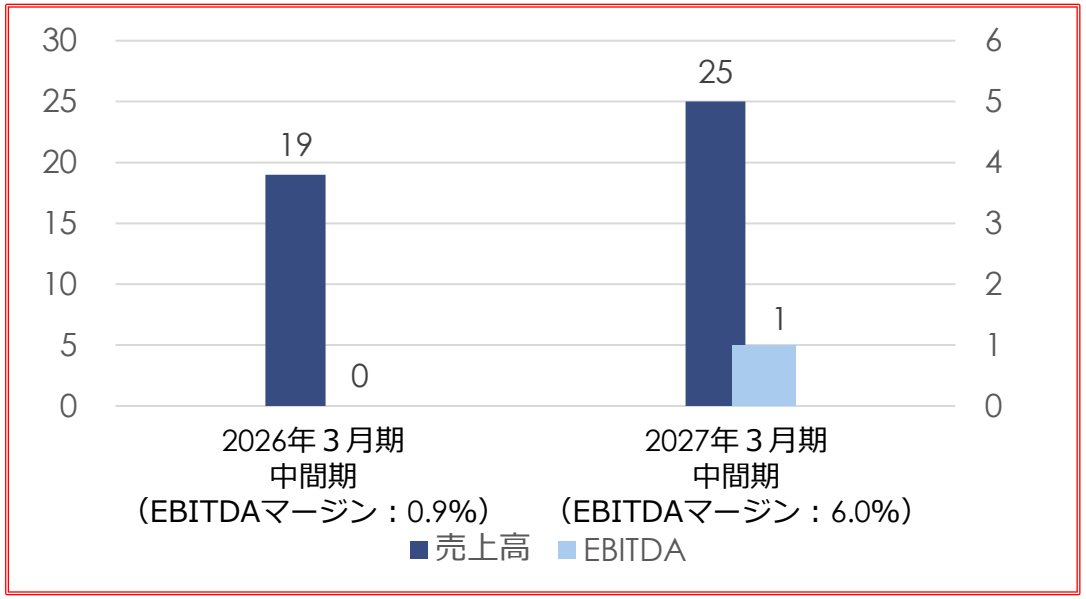
© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

6. セグメント別概況 ③先端機材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2026年３月期 中間期	2027年３月期 中間期	前年同期比	
売上高	19	**25**	+5	(+29.4%)
EBITDA	0	**1**	+1	(+730.3%)
営業利益	▲0.9	**▲0.0**	+0.8	(－ %)
EBITDAマージン	0.9%	**6.0%**	－	(+5.1Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

＜中間期業績について＞

▶半導体製造装置向けファインセラミックス製品の販売増加により、増収

▶瀬戸内工場の稼働に伴う減価償却費負担の増加があったものの、販売量の増加によりEBITDAは増益、営業利益は損失幅が大幅に縮小

＜今後の課題＞

▶半導体製造装置向けファインセラミックスの焼成・精密加工能力の増強による生産・安定供給体制の強化

▶半導体製造装置関連事業の拡大（ファインセラミックス製品のシェア向上、コムイノベーション社の事業領域拡大）

▶次世代エネルギー分野等の新規市場開拓

▶各分野向け耐摩耗部材のラインアップ拡充および拡販

▶無機塗料・無機接着剤製品の拡販

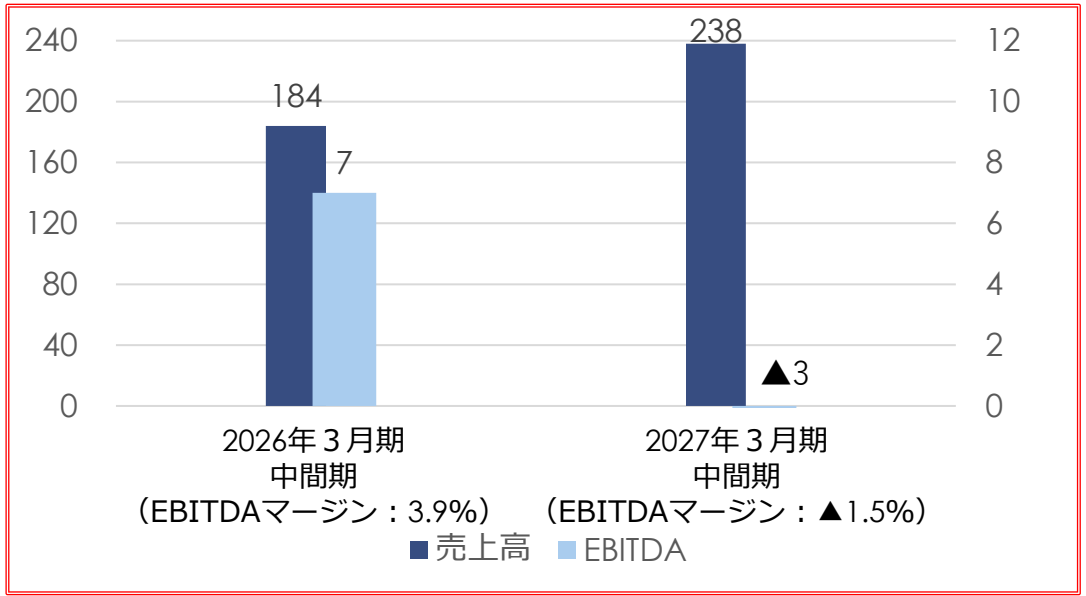
© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター

業績推移

(単位：億円)

	2026年３月期 中間期	2027年３月期 中間期	前年同期比	
売上高	184	**238**	+53	(+29.0%)
EBITDA	7	**▲3**	▲10	(－ %)
営業利益	2	**▲13**	▲16	(－ %)
EBITDAマージン	3.9%	**▲1.5%**	**－**	(▲5.4Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

＜中間期業績について＞

▶前第２四半期より連結対象となったReframaxの売上寄与により、増収

▶一方、Reframaxにおいて主要顧客向け大型工事案件の施工時期の下期へのずれ込み及び急激かつ大幅なコスト上昇により、減益。

＜今後の課題＞

▶Reframaxにおける下期にずれ込んだ工事案件の着実な施工およびコスト上昇分の確実な価格転嫁

▶各セクターとのシナジー創出およびReframaxとの技術連携によるエンジニアリング事業の強化

▶高度な技術力を活かした工業炉分野（カーボン焼成炉等）での受注拡大

▶カーボンニュートラル関連設備案件（大型電炉等）への着実な対応

▶耐火物リサイクル事業の拡充による循環型ビジネスモデルの強化

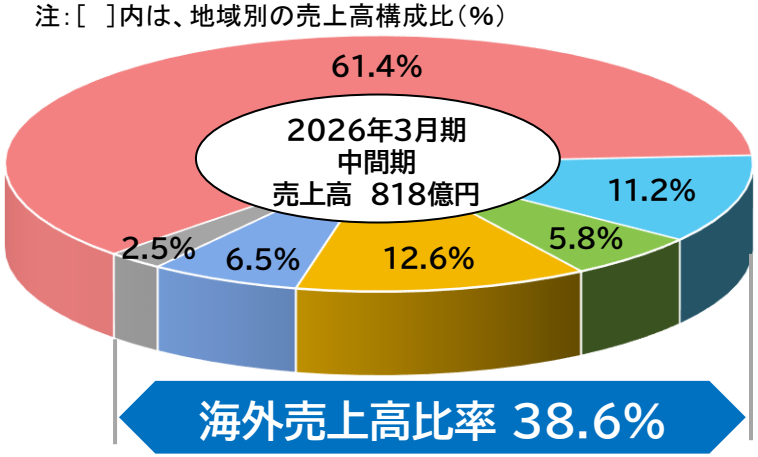
© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

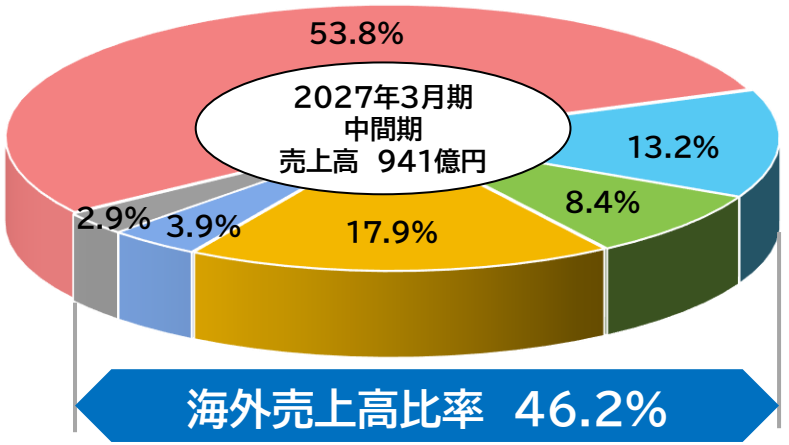
8. 地域別の売上高

（単位：億円）

	2026年3月期 中間期		2027年3月期 中間期		前年同期比
日　本		502 〔61.4〕		506 〔53.8〕	＋0.7%
アジア・オセアニア	海外計 315億円 (38.6%)	91 〔11.2〕	海外計 435億円 (46.2%)	115 〔12.2〕	＋25.6%
北　米		47 〔5.8〕		71 〔7.6〕	＋51.5%
南　米		103 〔12.6〕		168 〔17.9〕	＋62.9%
欧　州		53 〔6.5〕		63 〔6.8〕	＋20.0%
その他海外		20 〔2.5〕		16 〔1.8〕	▲18.9%
合　計		818 〔100.0〕		941 〔100.0〕	＋15.0%

注：〔　〕内は、地域別の売上高構成比（%）





当中間期の海外売上高比率は、前年同期比7.6ポイント上昇の46.2%となり、中期計画2026年度目標の45%を達成。
南米地域では前第2四半期より連結対象となったReframaxの寄与、北米地域では2026年3月に新たに加わったDynamixの寄与等により、それぞれ売上高が伸長。また、アジア・オセアニア地域および欧州地域も販売増加により増収。

© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

9. 2027年３月期の通期業績見通し

(単位：億円)

	2026年３月期 通期 実績	2027年３月期 上期 実績	2027年３月期 下期 計画値（参考）	2027年３月期 通期 業績予想	前期比増減率
売上高	1,777	941	**1,039**	**1,980**	+11.4%
EBITDA	221	85	**135**	**220**	▲0.6%
営業利益	136	41	**89**	**130**	▲4.5%
経常利益	159	55	**85**	**140**	▲12.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	260	62	**43**	**105**	▲59.7%
EBITDAマージン	12.5%	9.1%	**13.0%**	**11.1%**	▲1.4pt
ROS（営業利益率）	7.7%	4.4%	**8.6%**	**6.6%**	▲1.1pt

注：2027年3月期通期業績予想は2026年8月10日の公表値。下期計画値は通期業績予想から上期実績を差し引いて算出した参考値。

- 売上高は各セクターにおける拡販活動に加え、耐火物・エンジニアリングセクターにおけるM&A効果の寄与により増収見込み。
- 収益面では、上期に耐火物セクターで原燃料コストの上昇やGoudaおよびSAMにおける設備トラブルの影響を受けたほか、エンジニアリングセクターのReframaxでは主要顧客向け大型工事案件の下期へのずれ込みやインフレに伴うコスト上昇の影響を受けた。
- 下期は、価格転嫁の進展や設備トラブル影響の収束に加え、後ろ倒しとなった工事案件の売上計上ならびに各セクターにおける販売拡大などにより、上期の減益要因が概ね解消する見込みであることから、通期業績予想は8月10日公表値を据え置く。
- この結果、EBITDAは前期並みを見込む一方、営業利益はM&Aに伴うのれん償却額等の増加、経常利益は為替換算差益の縮小をそれぞれ主因として、減益を見込む。親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に多額の固定資産売却益を計上した反動により減益見込み。

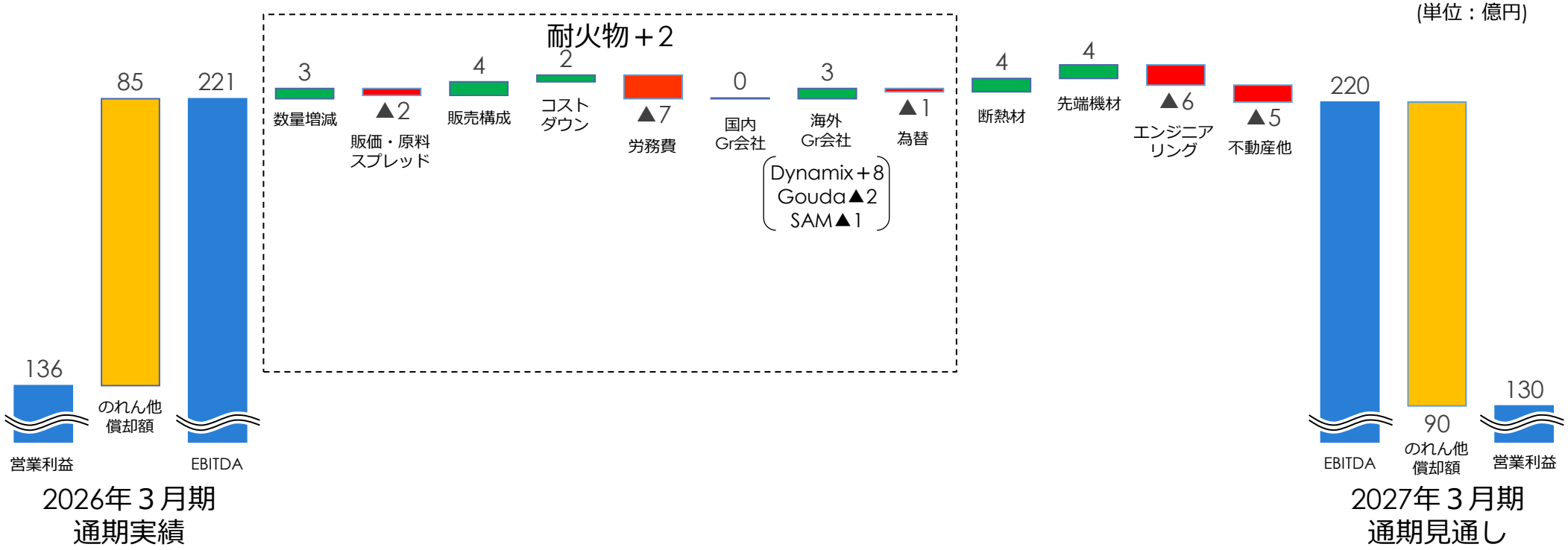
© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

10. 2027年3月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し（対前年度）

営業利益 減少額 ▲6

EBITDA 減少額 ▲1

(単位：億円)



・全セクターで拡販および継続的なコストダウンを推進するとともに、耐火物セクターにおける販売構成の改善や新たに加わったDynamixの利益貢献を見込むものの、エネルギー・原材料コストや労務費の上昇、エンジニアリングセクターにおけるReframaxの収益低迷等の影響により、EBITDAは前期並みの220億円を見込む。
・営業利益は、M&Aに伴うのれん償却額および設備投資に伴う減価償却費の増加により、▲6億円の減益見通し。

© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

11. トピックス
①中国・品川和豊に機能性耐火物の新工場が竣工

2026年9月、中国・遼寧省鞍山市の品川和豊耐火材料有限公司において、モールドフラックスを生産してきた既存拠点に、機能性耐火物の新工場を竣工

【新工場の戦略的意義】

- ●連続鋳造用機能性耐火物の生産体制を新たに構築
- ●モールドフラックスと機能性耐火物の一体供給体制を整備し、顧客提案力を強化
- ●R&Dセンター併設により、生産現場と連携した研究開発機能を強化
- ●中国・アジア・欧州市場における事業拡大を推進



＜品川和豊　所在地＞


＜機能性耐火物の製品群＞

モールドフラックスと機能性耐火物の一体生産・供給・提案体制を構築


＜新工場　竣工式の様子＞

© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

11. トピックス
②ファインセラミックス・高機能断熱材の供給能力を強化

半導体関連分野をはじめとする先端産業分野の需要拡大に対応し、ファインセラミックスおよび高機能断熱材の供給能力強化に向けた設備投資を決定

投資の目的

- ●半導体関連分野をはじめとする先端産業分野の需要拡大に対応
- ●高付加価値製品の安定供給体制を構築

事業	投資拠点	投資内容	強化内容	投資額
ファインセラミックス	備前工場	高温焼成炉の増設	焼成能力増強	約2億円
	瀬戸内工場	高精度加工設備の新設	高精度加工能力増強	約3億円
断熱材	イソライト工業	PCW※成形品の成形・焼成設備の増強	生産能力増強	約3.5億円

※PCW（Polycrystalline Wool、多結晶質繊維）：アルミナを主成分とする耐熱性に優れた人造鉱物繊維で、高温環境下で使用される工業炉などの断熱材として用いられる。

総投資額約8.5億円を投じ、成長市場向け製品の供給能力を強化

© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.

ご注意

本資料は、2027年３月期中間期決算（2026年４月～2026年９月）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は、2026年11月10日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。

© SHINAGAWA REFRA CO., LTD.